

寄稿 「IT・ICT」をやめ、「情報システム」と呼びましょう！

魚田勝臣(正会員 専修大学名誉教授)

21世紀の重要課題である、エネルギー、食料、環境、医療、福祉、教育などの解決策の根底にあるのが情報・情報システムであることは、共通認識になりつつあると思われまふ。ところが巷間で、これら解決策が取り上げられるときに、必ずといってよいほど、IT・ICT(情報技術・情報通信技術)と称され、「情報システム」と言われぬのは、問題だと思ひます。解決策は、当学会が提唱する意味での「情報システム」と呼ぶべきであり、学会会員は、この呼称を率先して広めまふ、と提案いたします。

人間を中心に考える情報システム学会では、情報システムを基礎情報学の分類による、生命情報、社会情報および機械情報をトータルとして取り扱う人間の仕組みと考へています。2014年2月に発刊した「新情報システム学序説」の第1章 1.1 情報の誕生 に、次のように記述されています(本書は、既に希望者のお手元に届いていると思われまふ)。

「“情報システム”、“情報技術”というとき、どちらにも同じ“情報”という文字が使われていることから、一般社会人はもちろん、情報関係の専門家ですえ、2つの情報の意味は同じであり、どちらも情報一般を表わしていると考へる人が多い。しかし基礎情報学の分類にしたがえば、“情報システム”は、生命情報、社会情報、機械情報をトータルとして取り扱う仕組みであり、“情報技術”は、機械情報を取り扱う手段であつて、2つの情報の意味は厳然と区別される。上記したように、原理的に情報技術では、機械情報以外取り扱いが不可能だということは、情報関係の専門家も一般社会人も、ともにもつと理解しておく必要がある。」

そこで、最近の事例をひとつ挙げてみまふ。

総務省は、2014年5月13日に「スマート・ジャパン ICT戦略」を発表しました。ここには重点プロジェクトとして、地域の活性化、社会的課題解決および東京オリンピック・パラリンピックがあげられています。どれをとつても皆、中心に人間がいるので、これらを機械情報しか扱わぬ ICT と称するのは不適切であり、情報システムとすべきです。つまり、表題は「スマート・ジャパン 情報システム戦略」とすべきです。戦略の各論における ICT という呼称も、情報システムに置き換えることで、文脈が適切になります。

これはごく一例ですが、事ほどさように、巷間に流れている IT・ICT と称されているものは、情報システムと置き換えると、本来の意味を的確に表すことになると思ひます。(ご案内の通り、IT は経済産業省およびその関連業

界が使う呼称で、ICTは総務省およびその関連業界が使う呼称です。両省は、相手の表現を決して使いません)

これだけ広まってしまったIT・ICTの呼称を改めるのは困難を伴いますが、一方で、最近「情シス」という呼び方もずいぶん見かけるようになりました。もちろんこれは「情報システム」の略称ですから、我が方にとって追い風が吹き始めていると思います。情報システム学会が、新情報システム学序説に示した考え方を広めるために、会員一人一人が注力してはと思い、提案いたします。

〈参考文献〉

1. 情報システム学会新情報システム学体系調査研究委員会, 新情報システム学序説 = Introduction to new information systems : 人間中心の情報システムを目指して!, 情報システム学会, 2014.2.
2. 西垣通, 基礎情報学 : 生命から社会へ, NTT出版, 2004.2.

〈参考 URL〉

- u1. スマート・ジャパン ICT 戦略 :
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02tsushin01_03000247.html (参照日 : 2014/05/15)
- u2. 情シスだからできる革新を - サイボウズのコラボレーションクラウド
<https://www.cybozu.com/sp/ep/> (参照日 : 2014/06/06)

以上